

疲れ

^{なにゆえ}
何故にびくびく怖れているのか、お前は

幼児の手を引く素朴で美しい女の
指先に光るルビー色のマニキュアを

何故に目を伏せるのか、お前は
雄々しく生きる逞しい勤め人の
真直ぐに、ありのままを見つめる瞳に

何故に眠るが如く身体を屈めるのか、お前は
黒い服をまとい、厚化粧した女が
お前の隣りにつつましく腰を下ろすのに

そしてお前は疲れの中にどっぷり身を沈め
しかも全ての筋肉に力をこめるというのか
しかも全ての精神を細い一本の糸へと張りつめるというのか

そしてお前は倒れ伏すというのか
小さな紙切れの上に・・・
しかもわななく右手にペンをとり
冷汗の流れる蒼い顔に左手をやり
ときどきと打つ目をなだめるように閉じて

そしてお前は再び、無い力をかき集め
絶望的に立ち上がるというのか

(1982.3.26)